

氏名： 1. 北野 宏明 ((株)ソニーコンピュータサイエンス研究所 取締役副所長)	
略歴： 1984年 国際基督教大学 教養学部理学科物理 卒業 1984年 日本電気株式会社 1988年 Carnegie Mellon Univ. 1993年 ソニーコンピュータサイエンス研究所	専門分野： Systems Biology, AI, Robotics, etc アート系： 2000年 Prix Ars Electronia, Special Award 2000年 La Biennale di Venezia 出展 2001年 ニューヨーク近代美術館 出展 など
公募対象プロジェクト： 本公募では、その対象領域は設定せず、個別に判断したうえで、私が興味を持ちサポートでき、かつ大きなインパクトを与える可能性のある応募を採用する。便宜上、以下の三つのトラックを基本に公募を行うが、それ以外での応募も可能である。 カテゴリー I：アントレプレナー このトラックは、本プログラムでの成果などをベースに起業することを目指す個人・グループを対象とする。対象範囲は、このプログラムに関わると思われる範囲であれば限定しない。本カテゴリーでは、提案テーマの概要と共に、事業計画書の提出を求める。特定のビジネスパートナー・協力者が想定されている場合には、提案者本人との面接とともにビジネスパートナーとの面接を行う。 カテゴリー II：オープン・イノベーション ひろくソフトウェアやインターネットなどを基盤として社会に大きなインパクトを与える技術の開発を目指す。オープンソースを念頭にしているが必須ではない。ネットワークを利用したコミュニティでの質の高い知識集積やインターネットとそれ以外の社会システムとの融合などもテーマに含める。 カテゴリー III：アート&サイエンス 上記以外のテーマで、アートやデザインに変革をもたらすもの、生命科学やロボティクスなどに関わるものなど。	
提案テーマ詳細説明の記入要領 及び 審査基準 記入要領： 以下に様式3【提案テーマ詳細説明】への記述内容の大まかな枠組みを示しますが、必要があれば補足して下さい。 1. 概要 Executive Summary (1ページ) 2. 本提案に関連する提案者のビジョン (1～2ページ) 3. 提案内容 (3ページ程度) 4. 進め方・予算案 (1ページ程度) 5. 成果の意義・展開について (1ページ程度) 6. 提案者経歴 (1ページ) 7. 実績、いままでに作ったシステム、作品などの紹介 (2ページ以内) 8. カテゴリー I の場合は、事業計画書、該当する場合はビジネスパートナー・協力者情報 審査基準： 審査にあたっては、以下の点を重視する。 カテゴリー I は、事業の期待度、実現性、本人の資質が重要である。端的に言うと、Googleを超えるような事業に成長する期待があるか？私自身が関わりたいと思うような魅力あふれる事業計画か？という点である。 カテゴリー II と III は、何らかのパラダイム・シフトをもたらすかということが重要だが、他のPMでは、当てはまらないような型にはまらない提案を期待する。	
採択予定数 (予算枠45百万円位)	未定。 応募内容次第。(左記予算枠は上期・下期合計)
採択しようとする 応募者の条件	特に決めていない。
プロジェクトの 進捗管理、対応方針	採択内容次第で、個別に対応する。

氏名： 2. 黒川 利明 (株式会社CSKホールディングス CSKフェロー)	
略歴： 1972年 東京大学教養学部基礎科学科 卒業 1972年 (株)東芝入社 総合研究所 1985年 日本IBM入社 東京基礎研究所 1999年 株式会社CSK入社 フェロー 2003年 文部科学省科学技術政策研究所科学技術動向センター 客員研究員兼務 現在 株式会社CSKホールディングス 総合企画部 フェロー	専門分野： プログラミング言語 標準規格(言語及びその環境) ソフトウェア開発
公募対象プロジェクト： ソフトウェア開発において、上流工程特に「要求」の獲得、記述、分析、並びに、管理の重要性は、従来から指摘されている。しかし、日本の環境で広く使えるツール、方法論、その他が欠けている。そこで、ソフトウェア開発の「要求」に対するツール、方法論など、例えば、最近話題になっている実行可能仕様など、あるいは、検索技術を活用したものなど、要求を扱う段階での諸作業を支援する提案を期待する。分野としても、通常のビジネス分野での要求に限らず、組み込み用の要求、通信プロトコルの要求、アジャイル開発の要求、オープンソースでの要求、金融工学の要求など様々なものを求めたい。	
提案テーマ詳細説明の記入要領 及び 審査基準 記入要領： 以下の内容を様式3【提案テーマ詳細説明】として、5ページ以内で記述すること。 1. いかなるプロジェクトであるか 2. 要求を扱うどの作業を対象にしているか 3. 誰を対象にするか 4. どのような効果があるか、それはどのように測定できるか。 5. その他の説明(例えば、これを使うために、必要な教育など) 審査基準： 審査にあたっては、以下の点を重視する。 1. 要求処理に関して、効果があること(独創性にはこだわらない)。 2. 対象とする多くの人が容易に使えること。(必要なら教育内容を示すこと)。 3. 効果を評価するための方式があること。(提案時に効果が評価できている必要はないが、効果の評価をどうすればよいかも提案すること)。 4. 導入費用が安価で、導入の手間が少ないこと。	
採択予定数 (予算枠45百万円位)	4件程度(2006年度上期・下期合計として)
採択しようとする 応募者の条件	特に決めていない
プロジェクトの 進捗管理、対応方針	毎月メールで進捗報告していただくとともに、中間および期末に報告会を開催する予定。また、機会があれば訪問して個別に状況を把握する。

氏名： 3. 高田 浩和 ((株)ルネサステクノロジ システムコア技術統括部 CPU開発第二部)	
略歴： 1988年 広島大学大学院 工学研究科 博士課程前期修了 1991年 日本学術振興会 平成3年度 特別研究員 1992年 広島大学大学院 工学研究科 博士課程後期修了、 博士(工学) 1992年 三菱電機株式会社 2003年～ 株式会社ルネサステクノロジ Linux/M32Rプロジェクト (http://www.linux-m32r.org)	専門分野： 集積回路工学 マイクロプロセッサ技術 最適化コンパイラ 組み込みOS (組み込みLinux) オープンソース フリーソフトウェア
公募対象プロジェクト： 「高性能組み込みシステム開発のための基盤ソフトウェア技術」 ～ 来たれ、Binarian! ～ 本プロジェクトでは、2005年度に引き続き、次世代の高性能組み込みシステムを開発する上で重要な基盤ソフトウェア技術に関する開発テーマを募集する。 1. 組み込みシステム用基本ソフトウェア ・組み込みLinuxの開発 (Linuxカーネル、開発ツール、ディストリビューション(ex. Debian/M32R)) 2. マルチコア環境への対応 次世代高性能組み込みプラットフォームである、マルチプロセッサ/マルチコアへの対応 ・マルチプロセッサ/マルチコア・システム向けの基本ソフトウェア及びミドルウェアの開発 ・マルチコア・プログラミング環境、マルチスレッド・プログラミング技術、クラスタ技術 3. 組み込みシステムのシステムレベル設計・評価技術 ・システムプロトタイピング、モデリング、シミュレーション/エミュレーション技術の開発 ・FPGAを利用したソフトウェア/ハードウェアのコ・デザイン技術 4. その他、応用技術(ロボット、画像/音声処理、セキュリティ技術など) これら以外のテーマについても積極的な応募を歓迎する。未踏プロジェクトにふさわしいとPMが判断できれば、これらのテーマ以外であっても、埋もれたスーパークリエイターを発掘すべく、(予定数の範囲内)なるべく多くの有望なテーマを広く採択したい。	
提案テーマ詳細説明記入要領 及び 審査基準： 記入要領： 以下の内容を様式3【提案テーマ詳細説明】として、10ページ程度で簡潔に記述すること。 1. 提案テーマのタイトル、目的および背景(1ページ以内) 2. 開発内容(図を含めて3～4ページでわかりやすくまとめて下さい) 3. 期待される効果、開発後の展望(開発後プロジェクトをどう発展させていくのか) 4. 開発体制、開発スケジュール(マイルストーンを明示下さい) 5. 開発費用の概算(費用、機材についての内訳) 6. 補足資料：研究業績(論文等)、参考文献リスト、携わったプロジェクトの紹介(2ページ以内) 審査基準： 審査にあたっては、以下の点を重視する。[以下の順で重視] ・テーマの面白さ。技術的にユニークで独創性があること。 ・未踏性が高いこと。従来の枠組みにとらわれない、新しい切り口をもつこと。 ・有用性が高いこと。単なるプロトタイプではない、使えるソフトウェアであること。 ・開発者の提案テーマに対するこだわり、思い入れ、やる気、そして取り組み姿勢(熱意を持って真剣に取り組む開発者の方々に対して、PMとしてできる限りのサポートをしたいと考えています)。 ・期間内に実現可能な開発テーマであること。 ・開発成果は広く普及して活用されるべく、オープンソースとして公開することが望ましい。 書類選考の後、候補者を絞って面接等の最終審査を行い、採否を決定する。	
採択予定数 (予算枠45百万円位)	3～5件(2006年度上期・下期合計として)
採択しようとする 応募者の条件	熱意と実行力。理想・展望をもち、周囲を巻き込みつつ、主体的に開発プロジェクトを遂行・継続できること。
プロジェクトの 進捗管理・対応方針	メールで毎月末に進捗報告いただく。メーリングリストを利用してメンバーとの議論や進捗フォローを行う。中間および期末に成果報告会を開催予定。

氏名： 4. 千葉 滋 (東京工業大学大学院 情報理工学研究科 助教授)	
略歴： 1991年 東京大学 理学部 情報科学科 卒業 1994-96年 Visiting student, Xerox PARC 1996年 東京大学より博士(理学)取得 現在 東京工業大学大学院 情報理工学研究科 助教授、 国立情報学研究所 助教授(客員)、 東京大学 特任助教授(併任)	専門分野： コンピュータ科学 (プログラミング言語設計・実装、オペレーティングシステム、ミドルウェア、分散処理)
公募対象プロジェクト： 「世界をめざす基盤ソフトウェアの開発」 日本発で国際的に広く使われているソフトウェアは少ない、あるいはない、という風評があります。ある意味で真実であり同時に誤った認識であると思いますが、このような現状を打破してゆくために、世界的に広く使われることを「目指した」ソフトウェアの開発を支援します。 <u>それ以外の条件はとくに付けませんが</u> 、原則として成果物はオープンソース・ソフトウェアであるものとします(相応の理由があればその限りではありません)。また、どちらかというとな純粋なアプリケーションよりは、プログラミング言語やソフトウェア開発環境、アプリケーション・フレームワーク、検索エンジン、オペレーティングシステムといった基盤ソフトウェアの提案を優先します。また、先進的な基盤ソフトウェアを使って作るアプリケーションの提案も歓迎します。ただし、広く普及する可能性が感じられればアプリケーションの提案であっても採用するつもりです。なお、開発するソフトウェアの機能がオリジナルであることや、突飛なアイデアに基づいていることは必ずしも求めません。現実のニーズに基づき、他の競合するソフトウェアと差別化できる特徴をもっており、広く普及する可能性をもっていけば十分です。	
提案テーマ詳細説明の記入要領 及び 審査基準 記入要領： 以下の内容を様式3【提案テーマ詳細説明】として、10ページ以内(添付資料含まず)でわかりやすく記述してください。 1. 提案プロジェクトのタイトルと概要(1ページ以内) 2. 開発するソフトウェアの内容(どのような機能を持ち、何の役に立つソフトウェアなのか) 3. 競合するソフトウェアに対する特徴(開発するソフトウェアがなぜ他より優れているのか) 4. 世界的に普及させるための方策。少なくとも英文の web サイトは作成してほしいと思います。英訳等を外注する場合は、開発費用にそれを含めてください。 5. これまでの実績。提案プロジェクトで開発するソフトウェアの試作版がある場合には、それについても記述してください。 6. 開発体制、開発スケジュール、開発費用の概略 審査基準： 審査にあたっては、以下の点を重視し、総合的に判断します。 ・開発期間の間に実現可能であり、最終的にデモンストレーションが可能であること。 ・開発したソフトウェアを普及させるための戦略があること。 ・今は何もなくてもかまいませんが、書類選考後の面接による審査の際には、ごく簡単なものでよいので、既に試作品があれば高く評価します。	
採択予定数 (予算枠45百万円位)	4～9件程度(2006年度上期・下期合計として)
採択しようとする応募者の条件	よいソフトウェアを作って普及させようという熱意が感じられれば、年齢、職業は問いません。柔軟に対応したいと思います。
プロジェクトの進捗管理、対応方針	メールやWebによる各月進捗報告。PMとメンバーによる不定期の打ち合わせ、3回程度の報告会。

氏名： 5. 並木 美太郎 (東京農工大学大学院 共生科学技術研究部 助教授)	
略歴： 1986年 東京農工大学工学研究科(修士)数理情報工学専攻修了 1986年 日立製作所 基礎研究所入社 1988年 東京農工大学 工学部 数理情報工学科 助手 1993年 東京農工大学 工学部 電子情報工学科 助教授 1996年 文部省長期在外研究員(米国ノースカロライナ州立大学) 2004年 情報・システム研究機構国立情報学研究所 実証研究センター 客員助教授 博士(工学) 研究室HP http://www.namikilab.tuat.ac.jp/	専門分野： OS・言語処理系・プロトコルスタック・ウ ィンドウシステムなどのシステムソフ トウェア 組込みシステム 並列・分散処理 モバイル・ユビキタスコンピューティング
公募対象プロジェクト： 限界に挑むシステムソフトウェア、ミドルウェア、サーバソフトウェアに関するプロジェクトを公募します。従来のシステムで問題となっているある種の限界に挑む基盤ソフトウェア、例えば、性能の低いCPUや少ない主記憶など資源の限られた組込みシステム、高速な計算や大容量の記憶装置での検索などを行う並列分散処理、大量の要求が発生するインターネットサーバの構築、などを想定したシステムソフトウェアやミドルウェア、特に、OS、コンパイラ・インタプリタなどの言語処理系、ファイルシステム、ネットワークのプロトコルスタック、ウィンドウシステム、DBMS、各種サーバの開発キット、高セキュリティなOSなどの基盤ソフトウェア、などを対象とします。また、近年着目されているFPGAなどを用いた再構成可能なアーキテクチャ向けのシステムソフトウェアも歓迎します。 募集するプロジェクトとして、 実用重視形 と アイデア重視形 の2種類を定めます。実用重視形は、応用プログラムとともに実用に提供できる水準を目指した内容とします。単に、システムソフトウェアなどの下層部だけではなく、応用層とともにニーズを明確化した有用性の高いプロジェクトを提案してください。アイデア重視形のプロジェクトは、着想と内容の面白さを重視します。キラーアプリケーションや実用化を強く要求するのではなく、従来にないユニークなアイデアを持つ基盤ソフトウェアの試作を行い、着想の可能性を検証することを必要条件とします。	
提案テーマ詳細説明の記入要領 及び 審査基準 記入要領： 以下の内容を様式3【提案テーマ詳細説明】として、15ページ以内(7の資料は含みません)で記述してください。 1. 提案プロジェクトのタイトルと概要(半ページ程度) 2. 既存のシステムソフトウェア、ミドルウェアの問題点 既存の基盤ソフトウェアの技術的問題点を明記し、特に何が限界かを強調してください。 3. 目標 何を、どのような方法で解決し、どのようなシステムソフトウェア、ミドルウェアを開発するのかを書いてください。同時に、実用重視形は対象とする応用層の具体的内容も、アイデア重視形はアイデアのユニークさが従来とどこが違うかを明らかにしてください。 4. 準備状況 プロジェクトで用いられる技術、ソフトウェア、機材などの準備状況を記載してください。 5. 具体的な開発計画(内容、開発体制、スケジュール、費用) 目標を達成するために、どのようなソフトウェアを、どのような体制で開発し、どのような日程でプロジェクトを進めるかを、申請する予算との関連を示しながら具体的に書いてください。 6. プロジェクトの効果 開発結果が社会にもたらす貢献を書いてください。特に、実用重視形については開発した内容が実社会で広く使われるための具体的方策を、アイデア重視形では実用につながる展望を強調してください。 7. 資料(任意) 1~6を補足する資料があれば添付してください(返却はしません)。 審査基準： 審査にあたっては、以下の点を重視する。 ・1~7により総合的に審査します。 ・実用重視形は広く社会に利用される可能性を、アイデア重視形はアイデアの面白さと同時に今後の展開が期待できるかを判断します。いずれも、提案されたソフトウェアが実現可能で、終了時にデモ可能であることは必須です。	
採択予定数 (予算枠45百万円位)	上期は3件~5件程度を予定(2006年度上期・下期合計として8件以上)
採択しようとする 応募者の条件	特に決めていませんが、優劣の判定が難しいときは、若手で実装能力の高い人を優先します。
プロジェクトの 進捗管理、対応方針	キックオフ、2回の中間報告会、最終成果報告会のほか、月1回のメール報告などで開発の議論と状況を報告していただきます。

Name & Affiliation:

6. David J. Farber (Distinguished Career Professor of Computer Science and Public Policy, Carnegie Mellon University)

Brief history:

1956 ME, Stevens Institute of Technology
 1956 Bell Telephone Laboratories
 1967 RAND Corporation
 1969 Xerox Data Systems
 1971 Professor of Computer Science, University of California , Irvine
 1981 Professor of EE, University of Delaware
 1990 Alfred Fitler Moore Professor of Telecommunications, University of Pennsylvania
 1996 Honorary Doctorate, Stevens Institute of Technology
 1999 Chief Technologist, Federal Communications Commission (1 and 1/2 years)
 2004 Emeritus Professor, University of Pennsylvania
 2004 Distinguished Career Professor of Computer Science and Public Policy, Carnegie Mellon University

Special field of study :

Distributed Systems
 Networking Architecture
 Secure/Trusted Computer Systems
 Wireless Technology and Mobile Applications

Target project of public offering:

● Title of area

Applications/services that utilize the increasing speed of wired and wireless Internets with particular emphasis on their ability to enrich the human experience.

● Target Projects of public offering

The advent of high speed networks, both wired and wireless, has offered the possibility of fulfilling the notions of bringing the power of distributed computing and distributed data storage to the offices and homes of the users of computers and mobile devices. While to date, the applications have been focused largely on searching and media distribution, there are other directions to explore. For example, it has been proposed that “agents”/“avatars” to represent a user in gathering information etc would dramatically re-define the environment. Also ideas for applications, which allow interaction between groups of people and these computer based intelligence would radically change the nature of human/computer interaction.

It has been proposed that more services that normally are supplied with in a personal system could be replaced and/or augmented by the remote invocation of these, in a transparent manner, over a sufficiently high speed network. This augmentation could be especially valuable when the personal system is of limited power, a cell phone, or when the services needs large amounts of computing power. Which and how such services can be attained is an interesting direction.

The above ideas also raise an issue of particular interest in allowing the mobility of applications across devices with widely different capabilities in a user understandable interface.

The above examples are just a few examples of ideas that we are interested in exploring. Security enhanced applications over networks; distributed debugging proposals etc, are also of interest.

We are especially interested in proposals that demonstrate new and innovative approaches in the utilization of networks and distributed computer systems that will enhance the human experience.

***** Referred Japanese translation *****

【参考和訳】ディビット・ファーバーPMの公募対象プロジェクト (2/13に追記)
 (但し、「応募時の提案書類は全て英語」で記述してください。)

公募対象プロジェクト:

有線・無線のインターネットの加速性を利用した、人間の経験を豊かにするための能力に重点をおいたアプリケーションやサービス

有線および無線の高速ネットワークの出現は、コンピュータやモバイル機器のユーザーのオフィスや自宅へ、分散コンピューティングと分散データストレージをもたらすという概念を実現する可能性を提供してきた。これまでアプリケーションは、主に探すこととメディアの配布を中心に考えられてきたが、探求すべきほかの方向性があると思われる。たとえば、「エージェント(代理人)」や「アバター(化身)」が、情報収集等の場においてユーザーの代理を務めることで、環境を劇的に再定義することが提唱されているし、また、アプリケーションに関するアイデアとしては、人間のグループとこれらコンピュータベースの知能との間の相互作用が、人間/コンピュータの相互作用の性質を急進的に変えることができると考えられている。

普段は個人のシステムの中で供給されるようなサービスが、十分に高速なネットワーク上において、かつ透明性の保たれた方法で、遠隔起動によって置き換えられ、そして/あるいは拡大されることが可能であると言われている。その拡大は、個人のシステムが携帯電話のような限られた力しかもたない場合や、サービスが大量の計算機能力を必要とする場合において、とくに有益なものになりうるだろう。そして、その種のサービスが、どのように、そしてどのような方法で達成されるかということは、大変興味深い。

こういったアイデアはまた、ユーザーが理解できるインタフェースにおいて、広範でさまざまな能力を有するデバイスを通じて、アプリケーションの可動性を実現する際には、特に興味深い課題をもたらす。

これらは、探求したいと思うアイデアのうちの一例であり、ほかにもたとえば、ネットワーク上でアプリケーションをさらに強化するようなセキュリティ;分散デバッグの提案、なども大変興味深い。ネットワークの利用や、人間の経験をさらに高める分散コンピュータシステムにおいて、新しく革新的なアプローチを示す提案に期待している。

***** Referred Japanese translation *****

Entry point of the project proposal:

Please provide a proposal no longer than 10 pages in form 3.

The proposal should include:

1. Title and Abstract of proposal
2. Background and purpose of project including the past work and accomplishments of the individuals or group involved in the project (i.e., other software projects, published papers or books, etc.)
3. A project summary, which may include pictures or diagrams including the novelty of the project or what, makes this project unique.
4. Describe the project milestones, task allotment among the project members, and a description of the project schedule.
5. Project expenses and budget estimation.
6. Describe the impact your project will have upon completion and how it might be commercialized.

Method of the examination:

Applicants will first be reviewed based upon their paper applications. Selected applicants may be asked to interview with David Farber in Japan or via telephone or teleconference prior to a decision on the final awards.

Contact Person: JaniceKusmirek janicek@cs.cmu.edu

<p>The number of adopted proposals to be expected (The budget is about 45 million yen as the 2006FY .)</p>	<p>Projects 2-5 (As the 2006FY total)</p>
<p>Condition of proposers (if any)</p>	<p>No special conditions are required as long as recipients can carry out their project.</p>
<p>Contribution in the project management</p>	<p>Submission of periodic progress reports via email, hearing (if necessary), mid-term meeting and final meeting to manage the projects and promote the results.</p>

氏名： 7. ウィリアム 齋藤 (株式会社フォーバル 取締役副社長)	
略歴： 1990年3月 米カリフォルニア大学リバーサイド校卒業 生物化学および AMP (Advanced Management Program)、EMP (Executive Management Program) を専攻 1991年11月 I/O Software, Inc. を設立、会長兼社長兼CEOに就任 2005年4月 株式会社フォーバルに入社、経営戦略本部社長特命担当後、6月に取締役副社長CTO担当役員に就任 2005年8月 株式会社フォーバルインターナショナル会長兼CEOに就任	専門分野： - 暗号技術 - 暗号化 - 認証(相互認証、機器/ユーザ認証) - デジタル署名 - 鍵交換プロトコル - 映像およびデータ圧縮 - 通信プロトコル - 起業化
公募対象プロジェクト： 以下のテーマに合致するソフトウェアを募集の対象とする。 1) ユニバーサル認証トークン - すべての認証方法および機器をサポートすること 2) 強固な鍵交換による暗号化(PKI:公開鍵基盤) - PKIによる/よらないeMoneyの改善 - PKIによる/よらないDRM(デジタル権利管理)の改善 - PKIによる/よらない電子メールセキュリティの改善 - PKIによる/よらないユーザ認証の改善 - 例：認証機器に電話を使用するなど - PKIによる/よらない安全なIP電話 3) テキストおよび図表からなる検索可能なユーザ文書の取り扱い。以下の事項を考慮する。 - 斬新で革新的なファイリング方法 - 斬新で革新的な検索方法 - セキュリティ要求条件のハイアラキ - 否認防止 - 文書の完全性 - アクセス管理 暗号化文書の柔軟な検索/ファイリングを基本とする。	
提案テーマ詳細説明の記入要領 及び 審査基準 記入要領： 以下の内容に留意し、様式3[提案テーマ詳細説明]に概要、詳細および開発線表を簡潔に3ページ以内で記述すること。 1. 現状の技術・製品の実現内容と問題点 2. 問題解決のための提案内容 3. 自分のオリジナリティ 4. 開発線表およびマイルストーンごとの達成尺度とアウトプット 審査基準： 審査にあたっては、以下の点を重視する。 独創的で統合範囲が広く、実用に耐えうるものを最重要視する。	
採択予定数 (予算枠45百万円)	4～6件(2006年度上期・下期合計として)
採択しようとする 応募者の条件	特に決めていない
プロジェクトの 進捗管理、対応方針	初期には数回の打ち合わせを行い、その後はメールで毎月進捗報告していただくとともに、中間および期末に報告会を開催する予定である。

氏名： 8 . 大川 恵子 (株式会社 スクールオンインターネット研究所 代表取締役所長)	
略歴： 1985年 慶應義塾大学大学院 工学研究科(修士) 修了 1985年 日本DEC 入社 1986年 日本サンマイクロシステムズ 入社 1996年 国連大学高等研究所 1997年 慶應義塾大学環境情報学部非常勤講師 2000年 (株)スクールオンインターネット研究所設立 2000年-現在 (株)スクールオンインターネット研究所 代表取締役所長 2001年 博士号取得 2001年-現在 慶應義塾大学 政策・メディア研究科助教授 (非常勤)	専門分野： ・ インターネットと大学教育 ・ 遠隔教育
公募対象プロジェクト： 「学びのプロセスを変革するソフトウェア」 インターネットが生活基盤に組み込まれた今日、社会活動のあらゆるところで変革が起こっています。子供から大人まで、世界中の人間が常に学び続けられる社会を実現するために、「学び」という社会活動に変革をもたらすという視点からみて価値のある、基礎技術、ミドルウェア、アプリケーション、など、あらゆる層のソフトウェア開発プロジェクトを公募します。	
提案テーマ詳細説明の記入要領 及び 審査基準 記入要領： 以下の内容を様式3【提案テーマ詳細説明】として、8ページ以内で記述すること。 1. 提案プロジェクトのタイトル 2. 目的 3. 概要 (特に、誰のどのような学びのプロセスにどのように貢献できるかを明記すること) 4. 提案内容 (技術的なアピールポイントを含む) 5. 開発体制 (メンバーおよび必要な機材) 6. 開発スケジュール 7. 予算案 8. 開発者のアピール (いままでの開発実績など) 審査基準： 審査にあたっては、以下の点を重視する。 ・ 提案者 (提案グループ) の開発力、実行力 ・ ソフトウェアがもたらす学びへの貢献が明確で、かつ魅力的であること。 ・ 国際的あるいはグローバルな視点が入っていることを高く評価します。	
採択予定数 (予算枠45百万円位)	6～9件 (2006年度上期・下期合計として)
採択しようとする 応募者の条件	特になし。
プロジェクトの 進捗管理、対応方針	2週間に1度メールにて進捗報告してください。必要に応じてミーティングを開催します。また、中間および期末には報告会を開催する予定です。

氏名： 9 . 河野 恭之 (奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 助教授)	
略歴： 1989年 大阪大学基礎工学部 卒業 1994年 大阪大学大学院 基礎工学研究科 (博士) 修了 1994年 株式会社東芝 関西研究所 2000年 - 現在 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 助教授 (http://ai-www.naist.jp/people/kono/index-j.html)	専門分野： 体験記録とその利用 ウェアラブルとユビキタス ヒューマンコミュニケーション マルチモーダルインタラクション 知的インタフェース
公募対象プロジェクト： ディスク等の大容量化に伴い、人の日常生活体験を自動的に記録しておき、蓄積された体験メディアデータをあとから検索・利用して人の能力の増強を図る「体験メディア」への関心が高まっています。本公募では、この体験メディア実現のための技術・アプリケーションを中心に、もの忘れ防止・問題解決支援などユーザの知的能力を増強するソフトウェアの開発プロジェクトを広く募集します。極端な例ですが、かな漢字変換はその人が対象漢字を書けなくても、読むことができローマ字を入力できれば書けるのと同じ能力を持つ、すなわち記述能力を計算機が増強していることになり、人はより高度なタスクに専念できるという意味で体験メディアの周辺システムと言えます。これらの周辺技術・システムも広く対象とします。また、体験メディアシステムのコアとなるメディア検索のような要素技術、蓄積した体験データのビジュアルライゼーション手法を含んだ提案も歓迎します。 本公募は未踏「ソフトウェア」ですので、4-5年以内に普遍的になっていない(であろう)デバイスは可能な限り使わないようにして下さい(「将来これは普及する」との信念があれば上記の限りではありませんが、その場合は提案書内に想定する世界と信念を記述して下さい。)	
提案テーマ詳細説明の記入要領 及び 審査基準	
記入要領： 様式3【提案テーマ詳細説明】として、提案内容(タイトル, 目的/背景, 最終成果物, 必要技術, 実施対象とスケジュール, 開発費の概要), その他アピールを記述して下さい。内容が備わっていれば様式は自由です。特にページ制限は設けませんが、無駄に長くならないように紙面を効率的に使い、わかりやすく伝える工夫をして下さい。アイデアを効果的に伝えるデモビデオ又はコンセプトビデオも歓迎します(素材ありの場合URL記述のこと)。	
審査基準： 審査にあたっては以下の点を重視します。少なくとも下記のいずれかを記述して下さい。より多い項目が有効にアピールされていると高く評価します。わくわくする提案をお待ちしています。 ・未踏性：なぜそのアイデアがあなたに生まれたのか、それはどこが新しい(未踏)のか、類似の既存開発物と何(技術? 対象? その他何?) が違う/チャレンジングなのか。 ・熱意と実行力：アイデアを動くものにするには思い入れと、思い入れを形にする開発力/人を動かす力が必要です。過去の実績を語って頂いても良いですし、事情があって書けない方は暖めてきたテーマへの思いを語って下さい。ただし、熱意が空回りして独りよがりの企画(=自分しか使わない開発成果となる)にならないよう、また(PMを含む)他人が理解できない謎の記述にならないよう注意して下さい。 ・開発目標の妥当性、提案実現への集中度：(例えばフルタイムに近い)高額の人件費を計上する場合、当然集中度が高いと見られますが、反面、休職等も辞さない覚悟と解釈します。また、工数がかかる理由をアピール下さい。 ・発展性：ただか1年足らずのプロジェクトとは考えず、提案を礎にした先のシナリオ、野望を高く評価します。シナリオが妥当であれば開発期間終了後にプロダクトレベルのものができていることを必須とはしません。また、発展性の要素は提案者自身の身の振り方にも関連します。上記の「覚悟」をしていただいても結構ですが、その後の人生にPMが責任を負[わ え]ないことを留意して下さい。成果物を売って「身を立てる」のもありますが、よほどの普及作戦がないとリアリティがありません。 ・普及方針の実現性：自分の創り出したものが多くの人に利用され役立つのを見るのは嬉しいものです。どうすれば提案ソフトが(想定ユーザ層の)多くの人に使ってもらえるか作戦立てしてみてください。オープンソースには特にこだわりません。むしろ義務的に公開するだけではあまり使われないでしょう。	
以上の観点から書類選考を行い、候補者を絞った上で面接を行います。	
採択予定数 (予算枠 4 5 百万円位)	9 件程度 (2006年度上期・下期合計として)
採択しようとする 応募者の条件	同程度の内容の提案がボーダーライン上に並んだ場合は若い人を優先しますが、それ以外は内容次第です。
プロジェクトの 進捗管理、対応方針	キックオフミーティング、及び中間・最終報告会を開催します(一部は合宿の予定)。少なくとも月に1回メールで進捗報告頂くとともに、必要に応じて個別に打ち合わせを設定します。

氏名： 10 . 美馬 義亮 (公立はこだて未来大学 システム情報科学部 助教授)	
略歴： 1982年 京都大学 理学部 卒業 1984年 東京大学大学院 理学系研究科 情報科学専攻 (修士) 修了 1984年 日本IBM株式会社 (現在の)東京基礎研究所 1999年 函館圏公立大学広域連合 嘱託 2000年 公立はこだて未来大学 講師 2005年 公立はこだて未来大学 助教授	専門分野： ウィンドウシステム ビジュアル言語 インターネットアプリケーション インタラクティブシステム 芸術情報 メディアアート
公募対象プロジェクト： 右上の専門分野や下に挙げたリストを参考に、担当PMがサポートできると予想される内容のプロジェクトを提案すること。内容に新規性をもつ企画であることは当然の前提であるが、その提案がキャッチフレーズにとどまることなく存在の必然性をもつものを重視する。また、その結果として、社会の中に根付くようなソフトウェアシステムを実現しようとする人を支援する。(厳密な定義はしないが)低価格で提供可能なハードウェアを前提とするものでもかまわない。プロジェクトの活動の中に、一見投機的にみえるようなチャレンジングな活動を含むことを期待する。 生産性：利用者の生産性、あるいは生活の質を桁違いに向上させるもの 創造性：創造力に関連した生産性を大幅に向上させるもの 教育：人間を学習機械として捉えるのではなく人間の力を拡張させるもの 表現力：人間の表現力を飛躍的に向上させるもの、感じたことのない感覚を提供するもの 社会：人間同士を結びつけるための新たな次元を提供するもの 上記をすべて満たすことは求めない。	
提案テーマ詳細説明の記入要領 及び 審査基準 記入要領： 以下の内容を様式3【提案テーマ詳細説明】とし、8ページ以内で簡明に記述すること。 1. プロジェクトのタイトル、概要(1ページ) 2. 提案内容：到達目標(効果) 実現方法(2ページ) 3. 未踏性の主張：プロジェクトの新規性や必然性、目標とする性能の高さ(1ページ) 4. 開発スケジュール：チェックポイントを含む実施計画、グループの場合の作業分担(1ページ) 5. 予算計画：人件費、機材、開発期間中の報告会の参加など想定される費用の内訳(1ページ) 6. 構成員の実績として挙げられる論文、システム、プロジェクト参加経歴など(1-2ページ) 審査基準： 審査にあたっては、以下の観点を重視する。 提案内容が特に優れていると見做される場合を除いて、開発者自身がソフトウェアの主たる設計・開発(プログラミング)に携わろうとするもの。 既存のソフトウェアの枠組みを掘り下げてあらたな地平を見出そうとするスタンスをもつもの。 少人数で多少性能の良いソフトウェアを書くだけなら、本事業に応募する必要はないと考える。新たな発想や視点、あるいはそれらを強化するための計画を伴ったものであること。 開発しようとするソフトウェアに対する明確なビジョンをもっていること。 深い思索に基づくと感じられるもの、内容に哲学性の感じられるもの。 基本的には上記の要素を積み上げて審査を行うことになるが、最終的に「総合的な」判断をすることもありうる。	
採択予定数 (予算枠45百万円)	4～8件(2006年度上期・下期合計として)
採択しようとする応募者の条件	特になし。
プロジェクトの進捗管理、対応方針	毎月メールあるいはWIKIにより進捗報告していただくとともに、適宜開発者訪問を行う。また、中間および期末に報告会・合宿等を開催する。